

日本語スプリングコース 2021年度

俵 山 雄 司

1. プログラムの概要

本コースは、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、日本語コースが受講できなくなった外国人留学生（正規生・研究生）等を対象に日本語のサポートを行うという趣旨のものである。昨年度に引き続き実施された。期間は、2022年2月14日（月）～28日（月）の10日間であった。

2. カリキュラム

このコースは、日本語をゼロから学ぶ学生を対象としたオンラインの初級集中コースとして、デザインした。1日に2コマ（1コマ90分）で、10日間で20コマ分の授業を行った。教材は、『A COURSE IN MODERN JAPANESE [REVISED EDITION] VOLUME ONE』のL1からL3を用いた。

各コマの具体的な内容は以下の通りである。

回	内容
1	Orientation, Hiragana あ～の
2	L1 Drill 1-2, Expressions 1 (number & time)
3	Hiragana は～ん
4	L1 Drill 3-4, Expressions 2 (greetings)
5	Hiragana が～ば & special sounds
6	L1 Drill 5-6
7	L1 Drill 7-8
8	L1 Drill 9-10
9	L1 Dialogue
10	L1 Aural comprehension, Task
11	L2 Drill 1-3
12	L2 Drill 4-5
13	L2 Drill 6-8
14	L2 Dialogue
15	L2 Aural comprehension, Task
16	L3 Drill 1-2
17	L3 Drill 3-4
18	L3 Drill 5-7
19	L3 Dialogue
20	L3 Aural comprehension, Task

表中にある Expressions は、数字・時刻・挨拶の基本的表現を紹介するものである。また、各課の Task は、その課の学修項目を使用して、学習者間でのインターアクションを図るものである。11回目からは、毎回 Expressions の単語あるいは Dialogue の会話文を範囲として、ひらがなでのディクテーションを行った。また、L1 の Dialogue を扱った回ではシャドーイングの方法を紹介した。その後も、授業内で折に触れて実施し、授業外でも練習するように促した。

3. 受講状況

13名から受講申し込みがあり、実際に参加したのは10名で、そのうち、最後までコースに参加したと言えるのは7名であった。

7名の属性は博士前期4名、博士後期1名、研究生2名であった。所属別にみると、国際開発研究科3、工学研究科2、医学研究科1、法学研究科1となっている。

4. 今期の評価と今後の課題

コース終了後のアンケート（6名回答）では、学習内容の理解・教員の熱意や工夫・満足感・教材の項目で、1名を除き、最高の評価をしていた。発言の機会の確保は全員が最高評価をしていた。これは、今回は比較的少人数のクラスであったことと関連があると思われる。

今回の参加者は、全員が既に文字は既習であったため、大きな困難を抱えることなく、授業内容を理解できたようであった。逆に考えると、全く文字に触れたことのない学習者に対しては、授業のペースが速すぎると感じられる可能性もある。このような全くの初学者が参加した場合の対応が、次回以降の課題である。